数であるが、山麓地には多い。アカイエカは昭和 25 年度の捕獲数の約半数にて、市街地は少なく、水田地、山麓地は凡同数である。コガタアカイエカは大体 3 地域とも昨年と凡同数である。シロハシイエカは水田地が他の地域に比して少数である。オオクロヤブカは市街地においては少ない。

〔金沢大細菌〕

近江八幡地方の蚊族について 正垣 幸男

Shogaki, Y.: Mosquito fauna of Ishikawa Prefecture

琵琶湖東岸は往昔より全国第一のマラリア患者の多発地区であつて、従つて同地方の蚊族相の調査はマラリア基礎対策の一として重要である。筆者は当時京都に進駐していた米軍第 207 部隊長レニヤ大尉の依頼に依つて昭和 25 年度は彦根地方の蚊族相を調査し、其の詳細は彦根マラリア研究所彙報として目下印刷中である。昭和 26 年度は彦根より稍南方の八幡地方の蚊族を同地縣立保健所及び町役場の協力を得て実施した。幼虫は第 1 表の如く 14 種を採集し、*Anopheles* 及び *Culex* の諸種は池、堀、川、稻田等の自然水域に多く、*Aedes* の諸種は石穴、竹切株等の人工小水域に多い事は他地方に於いての筆者の調査と一致して居る。成虫調査は Light trap を用い週 2 回夕方 6 時に点燈し朝 6 時に消燈して採集し 5 月より 10 月迄に得た種類は第 2 表の如く 16 種であつた。其の個体数は第一位がコガタアカイエカで、それよりシナハマダラカ、アカイエカ、キンイロヤブカ等々の順序であるがシナハマダラカが 35% の多数を占めた事は今回の調査結果の特異点である。(表は次頁)

〔京都米軍第 8164 陸軍病院研究室〕

アカイエカの一年間に於ける産卵と孵化に関する研究 (II) ト 部 昭

Urabe, A.: The oviposition and hatching rate of *Culex pipiens*; observation during 1951

1951 年 1 カ年間に亘り、産卵と孵化に関する観察を行つたが、7 月 15 日迄の成績は先に第 5 回本会近畿支部例会に発表したもので、今回は主として其後のものを報告し、併せて年間を通じての考察を行つた。1) 当大学構内に設けた防火用水槽 8 槽を用いて産卵状況を観察したが、1951 年度は産卵は 4 月 8 日に始まり、11 月 8 日で停止した。産卵数は其の期間中大きく六峯を画き乍ら消長を示した(表参照)。2) この産卵の季節的消長は水槽に適宜糞尿を投入して腐敗を起さじめ乍ら観察して見た。

産卵開始当初及び停止前には気温殊に最低気温の影響を可成り受ける様であるが、初夏、盛夏になると降雨と腐敗の影響が強く現われる様である。3) 降雨は産卵活動を妨害し、殊に産卵の機会を失わしめ、「メヂウム」を淨化して産卵数を減少せしめると考えられる。4) 「メヂウム」の腐敗は或程度迄その度合の強い程産卵数は増加する様である。新しく糞尿を投入した水槽は他槽に比べ顯著に産卵数の増加を示した。5) 卵塊の孵化率(1 日平均)は平均 91.3%, 最大 100%, 最小 74.8% であり、なお少数の非孵化及び低孵化率卵塊を見出した。6) 卵塊中の卵数は平均 210.8, 最大 437 最小 54 であつた

アカイエカの産卵々塊数表 (1951 年)
(十日平均)

〔京都府立医大医動物〕

米子市に於ける蚊の季節的消長

竹内 佑吉

Takeuchi, Y.: Seasonal prevalence of mosquitoes in Yonago city

米子市に於て昭和 26 年 6 月以降 12 月に至る期間、下記の 3 方法に依つて蚊を採集し、表題の事項の調査をした。(1) 屋内に入つて来る蚊成虫に就いての調査。市内の 5 家屋を選び之等の家屋に入つて来る蚊を毎旬 3 日間夜 9 時頃 30 分間採集した。(2) 動物小屋に入つて来る蚊成虫に就いての調査。本学校内で夜間山羊及び鶏を飼とした誘引法により各 1 箇所にて矢張毎旬 3 日間採集した。(3) 家屋附近の発生水域に於ける蚊幼虫に就いての調査。市内の 11 箇所(下水溝 7, 古井戸及び水溜り 2, 手洗鉢 1)を選び、之等の場所で毎旬 1 回調査した。その成績は次の第 3 表の通りである。

上表に示す様に米子市に於て人家内に最も多数入つて来る蚊は *Culex pipiens* アカイエカで、次いで *Culex*

第 1 表 近江八幡地方の蚊幼虫相

昭和 26 年 5 月～10 月

種 類	棲息水域	池	防火池	緩流(堀)	川	稲田	水溝	池水溜	湧水溜	汚水溜	肥溜	セト水槽	水がめ	石穴	竹切株	計	%
1. シナハマダラカ <i>Anopheles sinensis</i>		1		6		9	1	1								18	17.0
2. キンバラナガハシカ <i>Tripteroides bambusa</i>														1	2	3	2.8
3. フタクロホシチビカ <i>Uranotaenia bimaculata</i>														1	2	3	2.8
4. ヤマトヤブカ <i>Aedes japonicus</i>							4	1				1	1	7	3	17	16.0
5. トウゴウヤブカ <i>A. togoi</i>														1		1	0.9
6. ヒトスジシマカ <i>A. albopictus</i>								1						5	4	10	9.4
7. ヤマダシマカ <i>A. flavopictus</i>															1	1	0.9
8. トラフカクヒカ <i>Culex vorax</i>												2	2			4	3.8
9. コガタクロウスカ <i>C. hayashii</i>		1	1	2												4	3.8
10. アカツノフサカ <i>C. rubithoracis</i>				1												1	0.9
11. カラツイエカ <i>C. bitaeniorhynchus</i>		1		1												2	1.9
12. コガタアカイエカ <i>C. tritaeniorhynchus</i>			6	7	1	8	1		1							24	22.6
13. アカイエカ <i>C. pipiens</i>			2	3		2		3		1	2	3		1		17	16.0
14. ハマダラウスカ <i>C. orientalis</i>				1												1	0.9
計		3	9	21	1	19	6	6	1	1	2	6	3	16	12	106	/
%		2.8	8.5	19.8	0.9	17.9	5.7	5.7	0.9	0.9	1.9	5.7	2.8	15.0	11.3	/	100

(数字は採集回数)

第 2 表 近江八幡地方の蚊成虫相

昭和 26 年 5 月～10 月

Species	Female & Male	♀	♂	Total	%
1. コガタアカイエカ <i>Culex tritaeniorhynchus</i>		4,912	471	5,383	49.276
2. シナハマダラカ <i>Anopheles sinensis</i>		3,102	723	3,825	35.014
3. アカイエカ <i>Culex pipiens</i>		417	322	739	6.765
4. キンイロヤブカ <i>Aedes vexans nipponii</i>		380	173	553	5.062
5. アシマダラヌマカ <i>Mansonia uniformis</i>		139	16	155	1.419
6. カラツイエカ <i>Culex bitaeniorhynchus</i>		57	46	103	0.943
7. アカツノフサカ <i>Culex rubithoracis</i>		49	51	100	0.915
8. シロハシイエカ <i>Culex vishnui</i>		17	5	22	0.201
9. オオクロヤブカ <i>Armigeres subalbatus</i>		6	7	13	0.119
10. ハマダラウスカ <i>Culex orientalis</i>		10	2	12	0.110
11. ヤマトヤブカ <i>Aedes japonicus</i>		4	1	5	0.045
12. ミツボシイエカ <i>Culex sinensis</i>		4	1	5	0.045
13. コガタクロウスカ <i>Culex hayashii</i>		3	1	4	0.037
14. キンイロヌマカ <i>Mansonia ochracea</i>		2	0	2	0.018
15. ヒトスジシマカ <i>Aedes albopictus</i>		2	0	2	0.018
16. トラフカクヒカ <i>Culex vorax</i>		0	1	1	0.009
Total		9,104	1,820	10,924	/
%		83.3	16.7	/	100

(Light trap にて採集)

第1表 屋内に於ける成虫の季節的消長

種別 月別	アカイエカ	コガタアカイエカ	カイツカ	コガタクロスカ	シロハシカ	ミツボシカ	トウゴウヤブカ	ヒトスジシマカ	シナハマダラカ	オウクロヤブカ	トラフカクイカ	その他	合計
6月	304	4	0	4	0	0	29	0	0	47	0	0	388
7月	1224	181	3	8	0	0	21	1	124	35	1	(同定不能1)	1621
8月	815	318	21	7	10	3	9	4	336	54	5	(同定不能11) アシマダラカ1	1594
9月	283	32	2	1	3	0	2	1	40	23	4	0	391
10月	136	1	0	2	0	0	0	0	3	3	1	0	146
11月	97	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	97
12月	43	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	44
合計	2920	536	26	22	13	3	61	6	504	162	11	1	4281
%	62.2	12.5	0.6	0.51	0.30	0.07	1.42	0.14	17.7	3.78	0.25	0.02	

第2表 動物小屋に於ける季節的消長

i 山羊

種別 月別	アイエカ	コガタアカイエカ	カイツカ	シロハシカ	ヒトスジシマカ	シナハマダラカ	オウクロヤブカ	その他	集計
7月	33	150	0	0	0	40	0	0	229
8月	39	374	7	6	2	40	0	3	471
9月	67	53	2	0	2	11	2	0	137
10月	76	0	0	0	0	1	1	0	78
11月	9	0	0	0	0	0	0	0	9
12月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	230	577	9	6	4	92	3	3	924
%	24.8	62.4	0.9	0.6	0.4	9.9	0.3	0.3	

ii 鶏

種別 月別	アイエカ	コガタアカイエカ	カイツカ	トウゴウヤブカ	ヒトスジシマカ	シナハマダラカ	その他	集計
7月	142	74	0	2	0	1	1	220
8月	480	58	1	0	4	0	2	545
9月	591	4	0	0	4	0	0	599
10月	138	0	0	0	0	0	0	138
11月	9	0	0	0	0	0	0	9
12月	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1360	136	1	2	8	1	3	1511
%	90	9.0	0.06	0.13	0.52	0.06	0.19	

第3表 発生水域に於ける幼虫の季節的消長

種別 月別	アカイエカ	コガタアカイエカ	トラフカクイカ	トウゴウヤブカ	ヒトスジシマカ	合計
6月	885 ² / ₁₀	0	0	9 ⁴ / ₁₀	0	894 ⁶ / ₁₀
7月	2757	3	3	36	0	2799
8月	1875 ⁴ / ₁₀	130	4	22	4	2035 ⁴ / ₁₀
9月	3832	2	3	9	10	3856
10月	612	0	0	0	2	614
11月	5 ³ / ₁₀	0	0	0	0	5 ³ / ₁₀
12月	1 ¹ / ₁₀	0	0	0	0	1 ¹ / ₁₀
合計	9979	135	10	76 ⁴ / ₁₀	16	10216 ⁴ / ₁₀
%	97.68	1.32	0.09	0.75	0.16	

tritaeniorhynchus コガタアカイエカ, *Anopheles hyrcanus* シナハマダラカの順であつた。そして人家内に入つて来るアカイエカの消長は6月より漸増し7月に調査期間中の最高に達し8月次後漸減した。然し12月に於ても少数は認め得た。山羊及び鶏を囚として採集した成績でも各種蚊の消長の事実を認め得たが然し人家内に於ける消長とは若干の差異が認められた。尙人家附近の発生水域で幼虫を調べた成績ではその消長はアカイエカは6月より7月に急増したが8月に一時減少し9月に再び増加し本調査期間中の最高に達したが10月以後漸減した。以上の様に人家内に於ける調査と、囚による誘引法による調査及び発生水域に於ける幼虫の調査の3者の間にはアカイエカの消長に若干の差異を認めたが、この原因が何であるか今後の研究により明にしたい。

[鳥取大公衆衛生]